

平成23年8月26日(金)

第23回 運営推進会議 議事録

実施日 : 平成23年8月17日(水)

場所 : 西町内科クリニック 待合室

時間 : 午後1:00~午後1:30

参加者 : (家族)佐伯氏/(町内会)高士氏・瀬野氏/(支援センター)山崎氏/
(医師)小笠原氏/(管理者)谷口

計6名

欠席者 : (家族)・伊藤様

計1名

＜会議内容＞

1.(4月、5月、6月、7月)西まちだよりを配付し月毎の内容を説明した。

- ・4月・今年桜見は町内の「さくら公園」へ入居者5名(外出可能者)がおやつ持参し散策した。(町内会長さんからの勧めの場所)
- ・5月・端午の節句は毎年恒例の「もちつき」を行い「こいのぼり」の魚形を作り入居者の皆さん殆どが大好きなお餅を食べた。
 - ・2年間寝たきりだったM氏の看取りを自然な形で送った。
- ・6月・町内会の方との合同の防火訓練を行った。
 - (町内会より高齢者の方の避難の方法を学びたいとの要望があり実現)
 - ・初めての試みで「野外でのバーベキュー」行った。
 - (野外での食事は思ったより食が進み、用意した量を完食した)
- ・7月・今年の「夏祭り」はお天気に恵まれ大盛況だった。
 - ・初めての試みで「流しソーメン」を室内で行った。
 - (思ったよりソーメンをすくって食べていた)

2.流しそうめん・夏祭りのビデオを放映し、行事全体の概要・取り組み方を見ていただき、それぞれの感想・行事についての批評をしていただいた。

- ・流しそうめんについて、パイプの角度が急に見えた、流れが速く、少しとりづらそうであった。
- ・流しそうめんについて他の施設では麺がぐるぐると同じ個所を回り続ける機械を使用しており、このような本格的なものは良いと思った。
- ・夏祭りにおいて職員さんも笑顔で楽しそうであり、その雰囲気が伝わって入居者も笑顔になっている。このように認知症であっても視覚・聴覚さまざまな角度から「雰囲気」を味わっていただけるように行事をすすめていくのは良いと思った。

③ 入居者の看取りについて

*今夏前に看取りを行ったM氏、及び現在生命力が少しずつ衰退してきているK氏を例に挙げ、看取りまでの経過や関わり等どう行っているか？を報告した。

⇒本人がまだ元気な頃 自分の死をどのように迎えたいか？という考えを持っていたか？その意思にそった対応をする事が1番。又家族も同様どのように考えているか？その思いに沿った対応をしている。

⇒看取りという事は延命処置を続けることではない。食事や水分が摂れなくなり医師の指示で点滴を開始する。(又家族の希望)点滴はある一定の時期以上行っていると、次第に全身に浮腫が発生、浮腫の程度により点滴を中止する。体にとって点滴は不要になる。(浮腫が強くなると皮膚は壊死を起こす)点滴を中止してから約2～3週間経過の中で自然体のまま安心して逝去できるようにお手伝いする。我々が行う事は、今まで過ごしてきた環境の中で、自然体のままで本人にとっても又家族にとっても安心して逝去されるように手助けをすることである。

そのためには苦痛の無い状態で、常に口腔内、陰部、身体を清潔に保ち、また体の向きを変える。嚥下が出来た状態であればアイス棒(活性化に繋げる方法としても活用)を用い口腔内の潤いやケアを最期までおこなっている。

「看取り」としてのこのような関わりは元気な時も終末期も変わらぬ関わりで継続して対応していく。

⇒現在・看取りを行っている GH はほとんどない。そのような中で今回ビデオで見たような行事等を行い、今まで生きてこられた環境を再現し終末に向かっていく中、ごく自然に逝けるように努力しているところが凄いと思い、継続して行ってほしいと思う。

以上

次回 運営推進会議開催日	平成 23 年 10 月 19 日(水)
--------------	----------------------

医療法人 尚仁会
グループホーム「西まち」
管理者 谷口 良子